

TOSHIBA

ドレンアップキット取付説明書

形名
TCB-DP2801D

工事業者様用

- このたびは東芝パッケージエアコン用ドレンアップキットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
- 取り付けの前に、この説明書をよくお読みになり、正しい取り付けを行ってください。
- 取付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認してください。
- この取付説明書を必ずお客様に渡して、保管いただくように依頼してください。

警告

- 取り付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据付工事をされて不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 取付工事は、この取付説明書に従って確実に行う
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 再設置する場合は、販売店または専門業者に依頼する
取り付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。



“安全上のご注意” については、東芝パッケージエアコン（天井埋込形）ダクトタイプの据付説明書、取扱説明書をご覧ください。

取付時のお願い

取付工事の際、板金端面による切創などのけが防止のため、保護具をつけて作業してください。

取付可能機種

天井埋込ダクト形室内ユニット

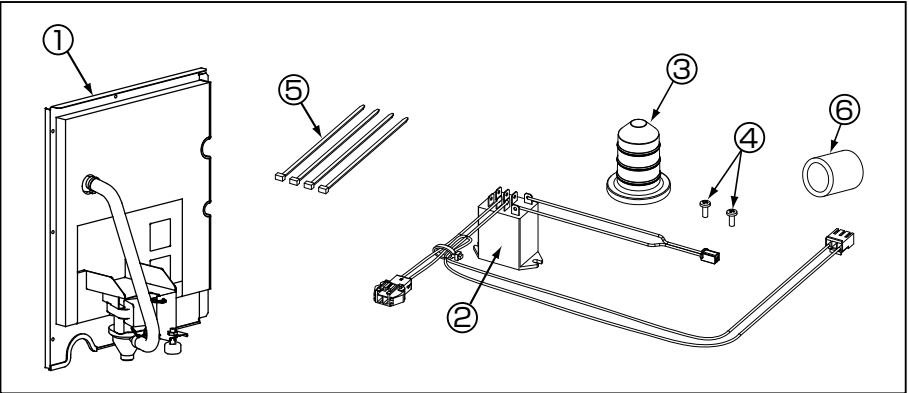
AID-＊P224 形，＊P280 形

MMD-＊P224 形，＊P280 形

構成部品

No	品名	数量
①	ドレンアップキット	1
②	リレー組立	1
③	ドレンキャップ	1

No	品名	数量
④	ねじ	2
⑤	結束バンド	4
⑥	断熱材	1

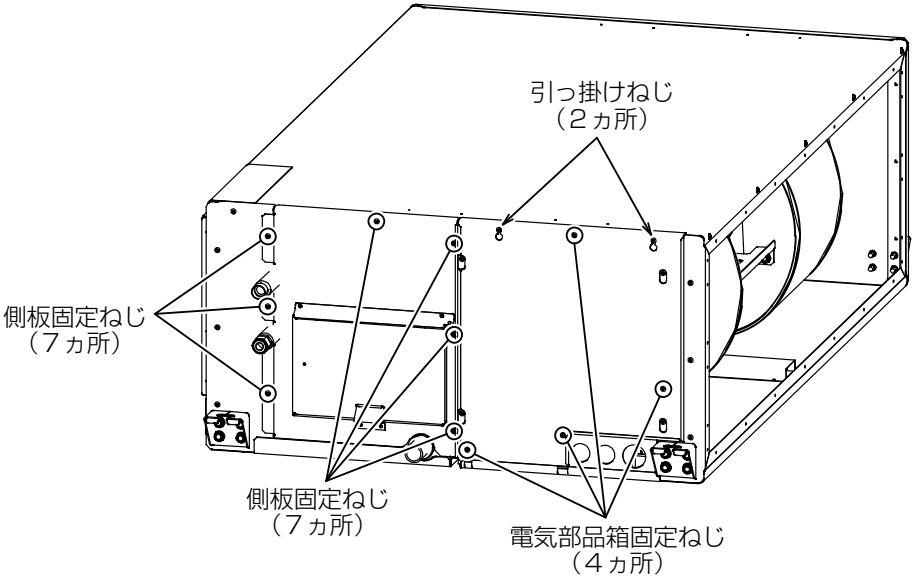


お願い

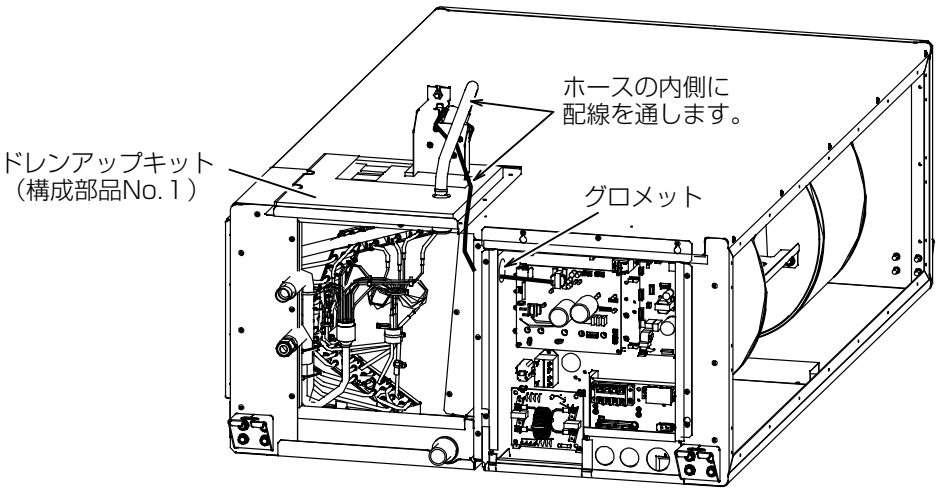
- ドレンアップキット本体の取り付けは、必ずこの取付説明書に記載されている方法に従い、室内ユニットの吊り下げを行う前に行ってください。
- 室内ユニットの水平度を確認してください。
（水平もしくはドレン取出口側が反対側に対し 5mm 以内で下方に傾斜して据え付けられていることを確認してください。）
- ドレン取出口側の下面天井部近傍に必ず点検口を設けてください。

取付方法

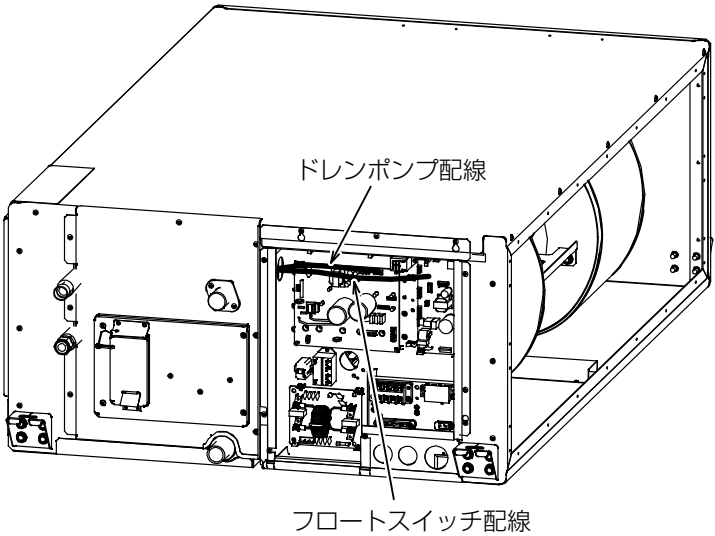
1. 側板を固定しているねじ（7カ所）を取りはずし、側板をはずします。電気部品箱のカバーを固定しているねじ（4カ所）を取りはずし、引っ掛けねじ（2カ所）を緩め、カバーをはずします。



2. 下図のように室内ユニットの天板にドレンアップキットを置き、ドレンポンプ配線とフロートスイッチ配線をグロメットに通し、電気部品箱内に引き込みます。

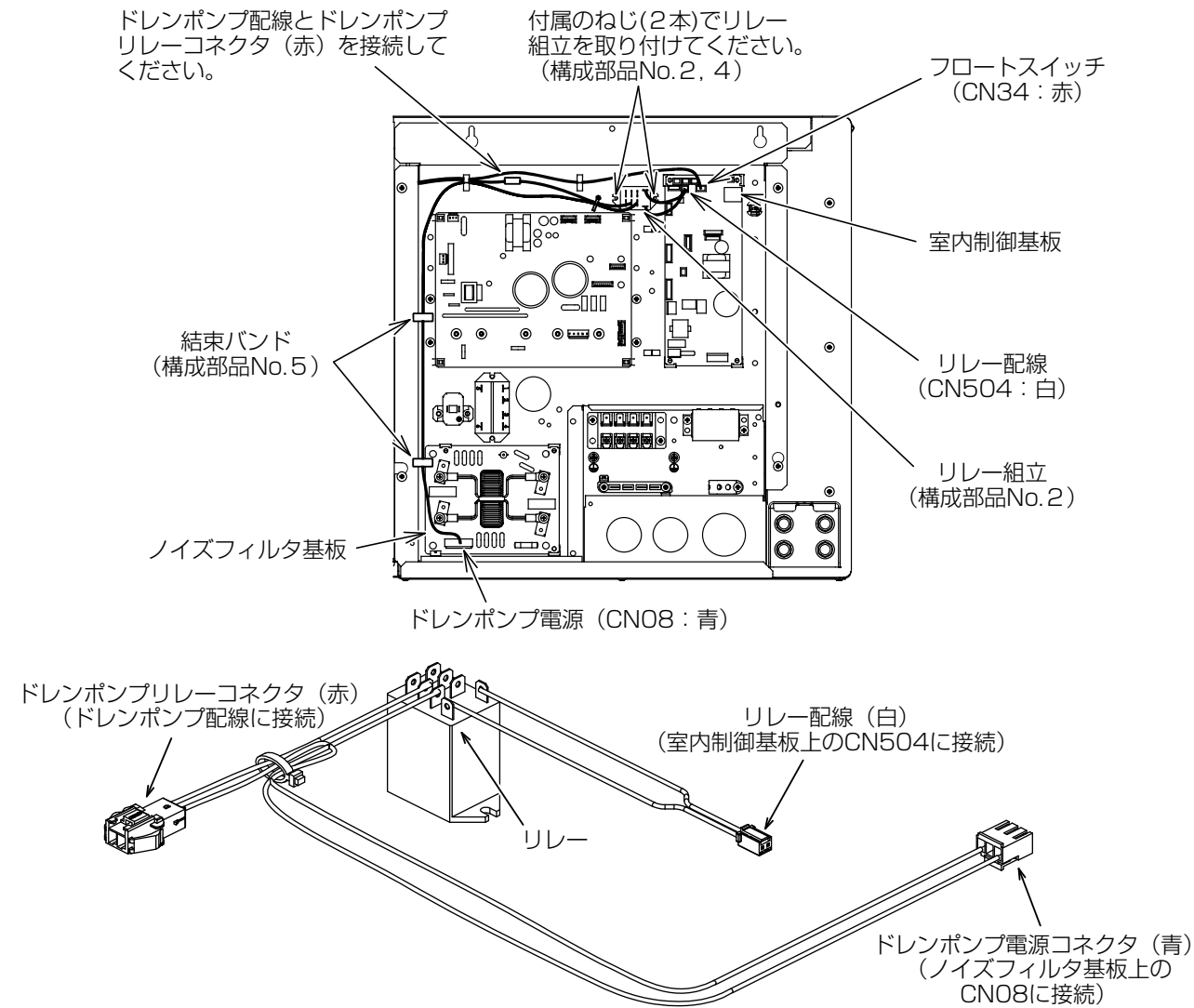


3. 室内ユニットにドレンアップキットを取り付け、ドレンポンプとフロートスイッチの配線を電気部品箱内に引き込みます。（側板を固定していたねじを使用してください。）

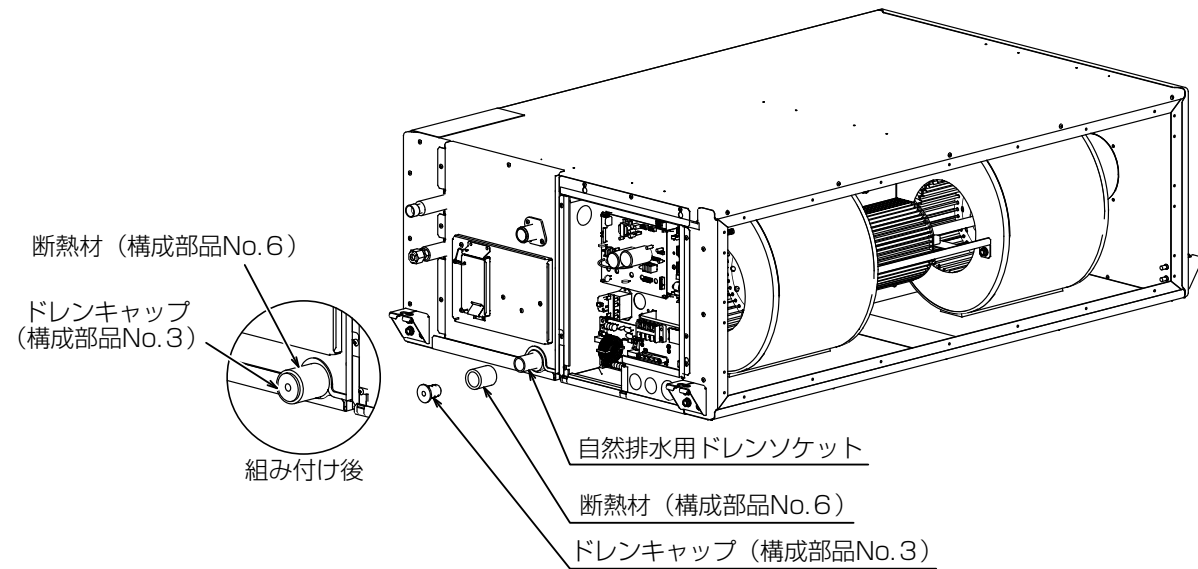


（つづく）

4. 電気部品箱に付属のリレー組立を取り付け、各配線を下図を参考に接続してください。
（配線は付属の結束バンドでまとめてください。）
- ① 付属のねじ（2本）でリレー組立を取り付けてください。（構成部品 No. 2, 4）
 - ② リレー配線（コネクタ白）を室内制御基板上の CN504（白）へ接続してください。
 - ③ 室内制御基板上の CN34（赤）に接続されている短絡コネクタを取りはずし、3. で引き込んできたフロートスイッチ配線（赤）を接続してください。
 - ④ ドレンポンブリレーコネクタ（赤）に3. で引き込んできたドレンポンプ配線を接続してください。
 - ⑤ ドレンポンプ電源コネクタ（青）をノイズフィルタ基板上の CN08（青）へ接続してください。



5. 付属の断熱材（構成部品 No.6）を奥までしっかり差し込んでください。
その後、自然排水用ドレンソケットに、付属のドレンキャップを取り付けてください。



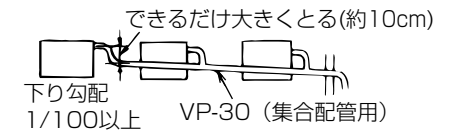
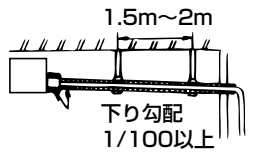
ドレン配管

注意

ドレン配管は、取付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないように断熱する配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



- ドレン配管は下り勾配（1／100 以上）とし、途中で山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは 20 m 以下にしてください。
配管が長い場合は、1.5 ～ 2m 間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けないでください。ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（パテ等）で埋めてください。
- ドレン配管は結露防止のため、必ず 10mm 以上の断熱材で隙間なく断熱し、また、ドレンアップキットと接続部も必ず断熱してください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口（硬質ソケット）には、接着剤の使用はできません。必ず付属のホースバンドで固定してください。
ドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。



配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事および断熱処理には右記の材料を現地手配してください。

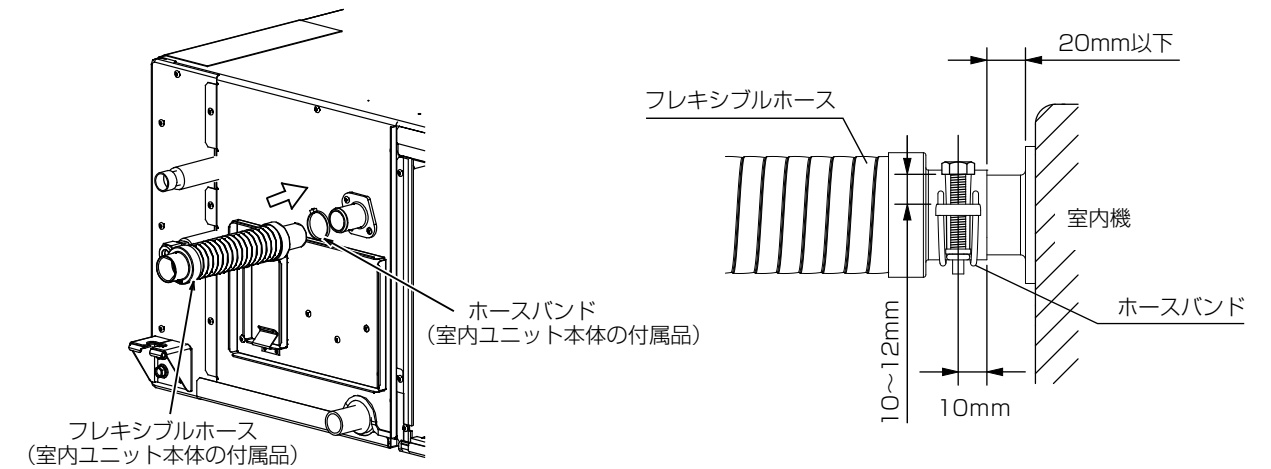
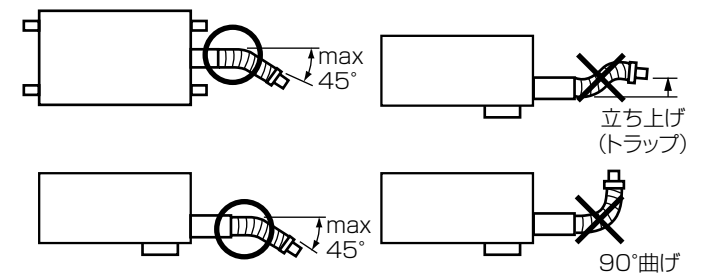
配管材料	硬質塩ビ管ソケット VP25用
	硬質塩ビ管 VP25(外径φ32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ10mm以上

フレキシブルホースの接続（室内ユニット本体の付属品を使用します。）

フレキシブルホースの軟質側ソケットをドレン配管接続口に突き当たるまで挿入し、ホースバンドで固定します。

お願い

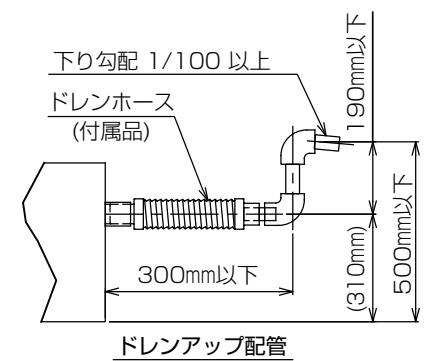
- 軟質側ソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- 付属のフレキシブルホースは、折れ・つまりが起らないように角度は 45° 以下とし、使用してください。



ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、ドレンアップができます。

- ドレンの配管の高さは、室内ユニット下面から 500mm 以下にしてください。
- ドレン配管は、室内ユニットのドレン配管接続口根元より 300mm 以下で取り出し、垂直に立ち上げてください。
- 垂直に立ち上げたあとは、すぐに下り勾配になるよう配管してください。



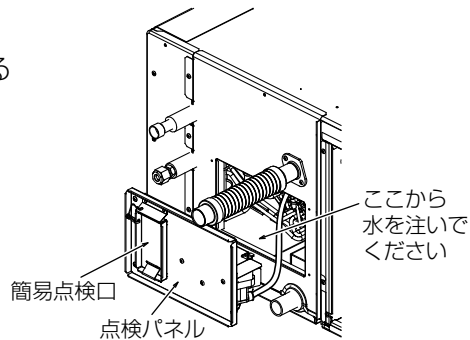
ドレンアップ配管

試運転

■ドレン排水状態の確認

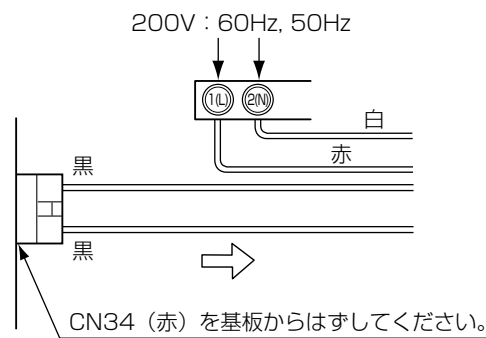
電気工事・配管工事終了後、冷房運転をしてドレン水がスムーズに排水すること、配管接続部から水漏れのないことを確認します。

- 点検パネルを固定しているねじ（4カ所）をはずし、点検パネルをとりはずします。
- 室内ユニットを冷房運転できない場合は、室内ユニットのドレン皿に水を注水して、ドレン水がスムーズに排水することを確認します。
- 各接続部から水漏れのないことを確認します。



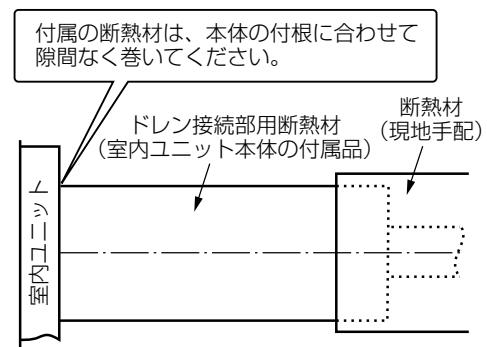
電気工事が終わっていない場合

- 電気部品箱の PC 板のコネクタ（CN34：赤）からフロートスイッチコネクタ（3P：赤）をはずしてください。（このとき電源が切れていることを必ず確認してください。）
- 電源端子板の ①Q、②N に単相 200V を接続します。（端子板の③には絶対 200V を印加しないでください。PC 板の故障の原因となります。）
- ドレンパンに注水してください。（注水量 1500cc ～ 2000cc）
- 電源を入れると、自動的にドレンポンプが運転しますので、ドレン配管接続口（透明部）または排水口から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。
- 排水、水漏れ確認後、電源を切りフロートスイッチコネクタを基板の元の箇所（CN34）に付け、電気部品箱を元に戻します。



■断熱処理

- 右図のように室内ユニット本体に付属の断熱材を室内ユニットのドレン配管接続口付根よりフレキシブルホースとホースバンドを被うように隙間なく巻いてください。
- 付属の断熱材に重ねるようにして、ドレン配管に断熱材（現地手配）を隙間なく巻いてください。



■簡易点検口からドレンパンの確認

フックをはずし、簡易点検口を開けるとドレンパンの汚れ具合を確認することができます。

保守・点検について

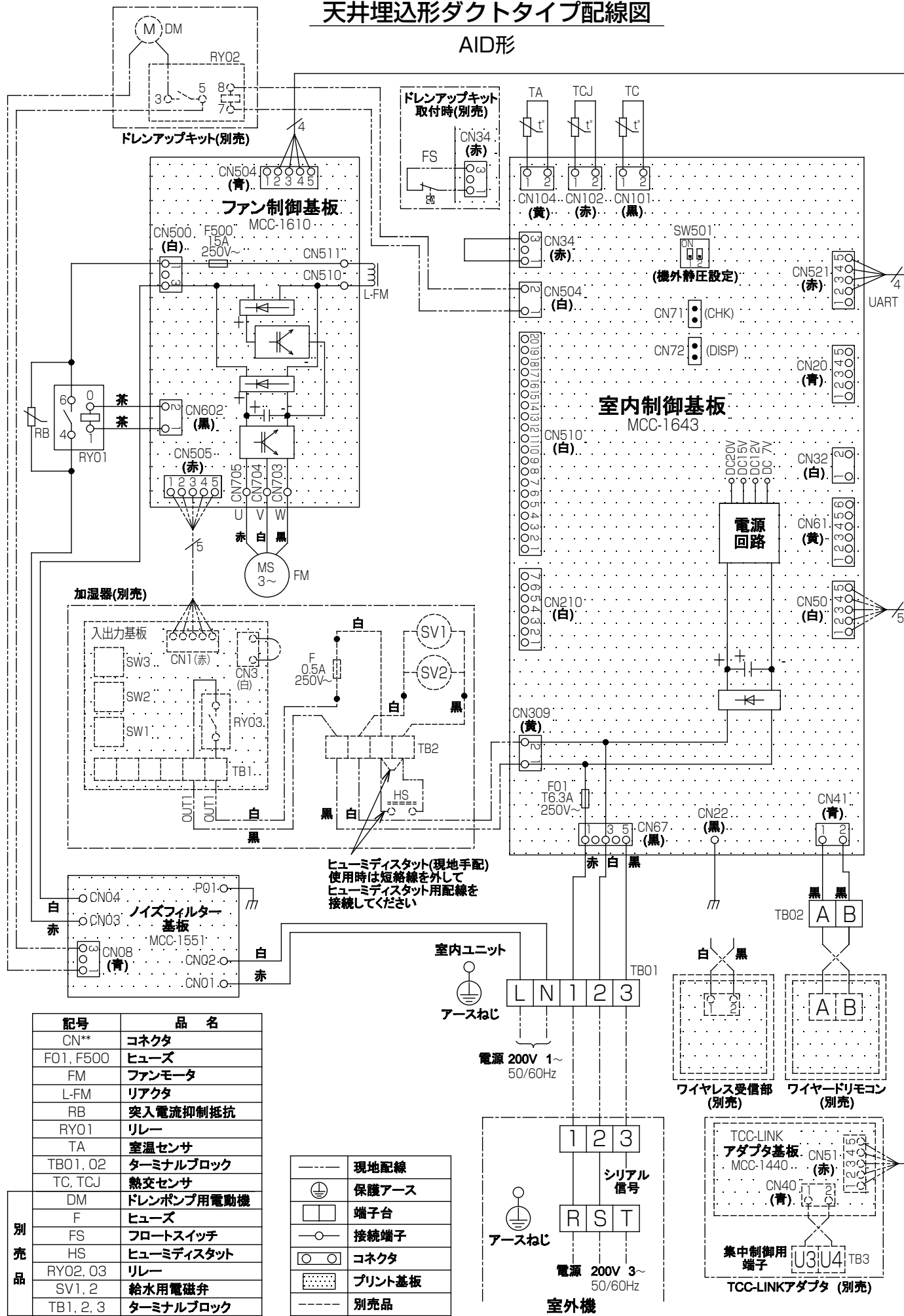
ポンプの詰まりや排水不具合の防止のため、定期的な保守点検、掃除が必要です。

特に、室内ユニット、ドレンポンプおよび付属のホースについては汚れやすいので、1 回／年、必ず冷房シーズン前にドレン皿などの汚れ具合をチェックし、汚れがひどい場合は掃除を行ってください。

◎お客様とご相談のうえ、ぜひ保守点検契約することをおすすめします。

天井埋込形ダクトタイプ配線図

AID形



天井埋込形ダクトタイプ配線図

MMD形

